

## 関東信越税理士会熊谷支部長賞

### 福祉と税

寄居町立寄居中学校 三年 瀬上 拓矢

今の日本はたくさん抱えていると思います。その中でも、少子化や高齢化の問題は身近に感じます。

高齢化により社会保障費の負担が増えているそうです。二〇〇〇年には高齢者を約3.6人で支えていたのが、二〇四〇年では約1.6人になるそうです。これは、少子化により働き手が減っているせいもあります。

これらの社会保障費は税金が使われています。僕らが払っている消費税も、社会保障に使われています。今の日本の消費税率は5%ですが、諸外国の消費税を調べて驚きました。15%以上の国が大部分で、25%という国もあります。さらに国民所得に対する租税負担率も調べてみました。日本は21.1%ですが、アメリカでは26.4%で、スウェーデンではなんと52.0%にもなっているそうです。姉が以前スウェーデンに行った時に地元の大学生に、高い税率は大変ではないか、と質問したそうです。すると、その大学生は「社会保障制度が充実しているし、教育費にとっても多く使われているので、高い税率に不満感を持っている人は少ない。」と、答えてくれたそうです。日本人は税率が高いとか消費税率が上がるのを反対ばかりしていますが、税金の使われ方をよく知ったり、今までより有効な使われかたをするようになれば、そういった意見も変わるのではないのでしょうか。

また、僕らが払った消費税をきちんと納めていない店などがあると聞きました。税金を預けているのに、納めていないでほかの事に使ってしまうなんて、冗談じゃないと思いました。納税の義務は日本国憲法第三十条で定められています。その義務を果たさないのに社会保障だけ受けるなど、もっての外じゃないのでしょうか。

僕は、将来介護福祉士をめざしています。僕は、人見知りするほうですが、お年寄りには普通に話しかけることができますからです。これから、自分が関わろうとしている社会福祉が向上するように、税の制度もより良いものになっていくといいと思います。そのためには自分たちがもっと税に関心を持ち、意見を述べていければいいと思います。